

ニコチン代替療法の薬剤 ニコチンパッチ・ニコチンガム

- ・ニコチン代替療法剤は有効性が確立している薬剤
- ・正しい使用方法(用量・用法)についての情報提供も大切
—特にニコチンガム
- ・ニコチンパッチを処方できる医療機関や禁煙外来についての情報提供が大切

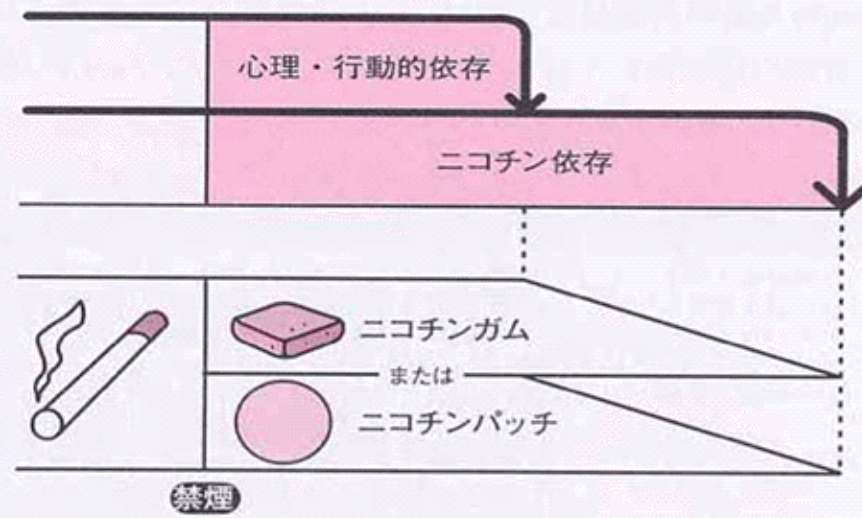


© 厚生労働科学・中村 2002

ニコチン代替療法の薬剤

- ニコチン代替療法剤は、有効性が確立されている薬剤で、禁煙率が、約2倍高まることが明らかになっている。
- わが国では現在、ニコチン代替療法剤としてニコチンパッチとニコチンガムが使用可能である。
- ニコチンパッチ(商品名ニコチネルTTS)は、ニコチンを含んだ貼り薬で、ニコチンが皮膚の毛細血管から吸収される。ニコチンパッチにはニコチンの含有量の異なる3種類の製剤がある。
- ニコチンガム(商品名ニコレット)は、1個当たり2mgのニコチンを含有し、そのうち約0.8mgが口腔粘膜より吸収される。
- これらの薬剤の効果を得るためには、その使用方法を正しく守ることが大切である。特にニコチンガムについては、かみ方や使用量を誤ると効果が十分出ない場合があるので、使用にあたっては使い方についての指導が必要である。
- 一般にニコチンパッチの方が使いやすく安定した効果が得られる。ただし、薬局・薬店で購入できるニコチンガムに対し、ニコチンパッチは、医師の処方が必要とする。処方を希望する者に対して処方できる体制がとれない場合は、処方が可能な医療機関についての情報を提供することが大切である。

●ニコチン代替療法による依存状態からの脱却●



© 厚生労働科学・中村 2002

ニコチン代替療法による依存状態からの脱却

- タバコへの依存には、薬物依存としてのニコチン依存と心理・行動的依存(習慣)の2種類がある。
- ニコチン代替療法では、2段階に分けて依存状態から抜け出す。
- 最初は、ニコチンを薬剤の形で補給することで、禁煙時に出現するニコチン離脱症状を緩和しながら、まず心理・行動的依存(習慣)から抜け出す。
- 次に、ニコチンの補給量を徐々に減らしながら、ニコチン依存から離脱する。